

## 第4回 甲府市公共施設再配置計画検討委員会

### 会 議 録

会 議 名	第4回 甲府市公共施設再配置計画検討委員会	
日 時	平成31年3月25日(月) 午前10時30分～11時20分	
場 所	甲府市役所本庁舎6階 入札室	
出席者名	会 議 員	込山委員長、松野委員、輿石委員、佐野委員、村田委員、雨宮委員
	事 務 局	早川総務部長、太田契約管財室長、金井財産活用課長、大森財産活用課課長補佐、長田財産活用課課長補佐、飯田財産活用係長
次 第	1 開会 2 委員長あいさつ 3 内容 (1) (仮称) 甲府市公共施設再配置計画(案)について (2) その他 7 閉会	
配 付 資 料 名	<b>【次第】</b> <b>【資料1】</b> (仮称) 甲府市公共施設再配置計画(案) 市民公表版 <b>【資料2-1】</b> (仮称) 甲府市公共施設再配置計画(案) 概要版(基本方針編) <b>【資料2-2】</b> (仮称) 甲府市公共施設再配置計画(案) 概要版(実施計画編) <b>【資料3】</b> (仮称) 甲府市公共施設再配置計画(案) 基本方針編 <b>【資料4】</b> (仮称) 甲府市公共施設再配置計画(案) 実施計画編	

#### <会議要旨>

発 言 者	内 容
司会	<b>1 開会</b>
委員長	<p><b>2 委員長あいさつ</b></p> <p>憲法 29 条における、私有財産制度では、財産の所有にあたり、常に公共の福祉が優先すること、公共の福祉に反しない範囲で財産の私有が認められている旨の規定がある。一方、公共施設は、その名のとおり、正に公共の福祉に資するべきものであり、国民にとって、必要な施設、設備を備えておく必要があると思う。</p> <p>無制限の予算があれば、内容の充実した施設を整備することが可能であるが、現状は、常に限られた財源との絡み合いにより、必要な施設や設備を検討しなければならないことが、課題となっている。</p> <p>委員の皆さんには、施設を利用する立場であつたり、公共施設を運営する立場からの目線であつたりと、あらゆる角度から、ご意見をいただき、甲府市の公共施設がよりよい再配置ができ、結果的に住民サービスが充実していくという大きな目標に向け、意見交換をお願いしたい。</p>

委員長	<p><b>4 内容</b></p> <p><b>(出席状況の報告)</b></p> <p>委員 7 名のうち 6 名が出席しており、設置要綱の規定第 5 第 5 項より、委員の定数要件を備えているため、本会は成立している。</p>
委員長	<p><b>(1) (仮称) 甲府市公共施設再配置計画 (案) について</b></p> <p>(1) (仮称) 甲府市公共施設再配置計画 (案) について、事務局の説明を求める。</p>
事務局	<p><b>【資料 2-1】</b> (仮称) 甲府市公共施設再配置計画 (案) 概要版 (基本方針編) 及び</p> <p><b>【資料 2-2】</b> (仮称) 甲府市公共施設再配置計画 (案) 概要版 (実施計画編) について説明。</p>
委員長	<p>質問・意見等を募る。</p>
委員	<p>モデルプランの中に、小学校等に老人施設や子育て支援施設を複合化していく内容が掲載されているが、今後、実施していく予定の学校は決まっているのか。</p>
事務局	<p>学校施設への複合化にあたっては、児童生徒の学習環境や学校生活に支障が生じないことを前提としており、各学校の余裕教室を活用していくことを考えている。</p> <p>他都市においても、少子化に伴う余裕教室の活用策として、学校の複合化を検討している。甲府市立の小中学校では、現状、余裕教室がなく、将来的に、少子化の進行に伴って生じることが見込まれる余裕スペースの活用方法の考え方として示しているもので、今のところ具体的な候補となる学校は決定していない。</p>
委員	<p>実際に、学校と他施設との複合化を実施している他都市の事例があると聞いたことがある。</p>
事務局	<p>既に学校施設と他施設との複合化を実施している他都市の事例はあり、実施計画の本計画の中でも、第 5 章の資料編の中で、先進的な取組事例を紹介している。</p> <p>他都市においても、学校施設は、公共施設全体の延床面積の多くを占めており、余裕スペースの有効活用策は、共通の課題となっている。</p>
委員	<p>少子高齢化、核家族化が進んでいることから、高齢者施設との複合化によって、地域の子ども達と高齢者の交流が促進されることは、良いことだと思う。</p>
事務局	<p>実施計画 126 ページに、埼玉県の事例を掲載している。</p> <p>この事例をみると、委員にいただいた意見のように、小学校の中に、地域の公民館や老人福祉施設などを複合化することによって、地域と子どもたちの交流の場を提供して</p>

	<p>いるケースもある。</p>
委員	<p>廃止を検討するとしている施設の中に、私の地域に設置されている市営住宅が3つあるが、見たところ老朽化が進んでおり、入居者はいないように思うが、現状どのような状態なのか。</p>
事務局	<p>現在も、入居者がいる。</p> <p>当該住宅については、先般、新聞報道で取り上げられた経過もある。</p> <p>現状は、建物の老朽化がかなり進行しているほか、耐震性もなく危険であることから、入居者の安全性という観点において、他の市営住宅への転居をお願いしている。</p> <p>これら施設の写真については、資料の4ページに掲載している。</p>
委員長	<p>いわゆる昔の「長屋」のようなもので、耐震性のほかに、火事も心配される。</p>
事務局	<p>入居している方に、万一何かあってはならない。</p> <p>そのため、本計画では、入居者の転居を進め、当該住宅の廃止を検討していくこととしている。</p>
委員	<p>老朽化している施設を廃止した場合、跡地には何も作らないのか。</p>
事務局	<p>地域の要望等や今後の政策的な部分も含め、跡地の利活用方法について検討していくことになる。</p>
委員	<p>し尿処理施設は、以前から廃止して欲しい旨の地域要望をした経過がある。</p> <p>その際、市の回答は、跡地の利活用を地域で決めて欲しいという内容だったと記憶している。地域の考え方といっても、人それぞれ、様々な意見があると思うので、地域としての意見を取りまとめるのは難しく、結果、廃止されないまま残されている状況がある。</p>
事務局	<p>再配置計画が完成した後は、計画に従い、施設毎の個別方針を作成していくことになる。当該し尿処理施設については、短期に検討するとしているので、何れかの動きが出てくると思う。</p>
委員長	<p>本来の役割を終えた施設を廃止し、土地を売却していくことは理解したが、実施計画、2章の4で、土地の売却効果を約38億円としているが、これは適正価格なのか。</p>
事務局	<p>土地の不動産鑑定を基に計上したものではなく、国交省等の地価の公示価格を基に試算している。</p>

	<p>実施計画の 14 ページにあるとおり、売却の効果額のシミュレーションということでお示ししている。試算にあたっては、市街化区域を 46,000 円/㎡、市街化調整区域を 26,000 円/㎡、山間地区区域を 4,500 円/㎡の単価設定をさせていただく中でシミュレーションしている。</p>
委員長	<p>掲載されているのは、あくまでもシミュレーションの結果であり、これ以上で売れる場合もあれば、これ以下となってしまう場合もあるということ、売り方にも左右されるということか。</p>
事務局	<p>土地の価格が変動する場合もあるし、競争の仕方によっても変わってくる。</p>
委員	<p>短期で再配置を検討していく施設の一覧が示されているが、この中での優先順位は定まっているのか。</p>
事務局	<p>短期に検討していくとした施設は、施設担当部局から提出された意見をまとめたものとなっている。今後は、各施設のアクションプランを施設担当部局で策定し、実際の再配置に要する費用等を算定する中で、財政計画等との調整を図りながら、実施年次を整理していくことになる。</p>
委員	<p>計画の削減率は、シミュレーション結果より算出しているが、実際の再配置にあたっては、土地の売却益を充てるなど、財源とのバランス等を考慮しながら実施していくということになるのか。</p>
事務局	<p>本市の財政計画は、この先 10 年間の財政の見通しについて毎年度の見直しを行っている。仮に建物を潰すにしてもお金は必要になってくるため、財政計画との連携を図っていくことは重要になる。</p> <p>土地の売却にあたっては、更地にして売却する場合もあれば、市として使用しなくなった建物を解体しないまま売却するような、市の負担軽減策を検討しながら進めていかなければならないと考えている。</p>
委員	<p>今後は、計画をどのように使って進めていくのが重要である。</p> <p>一つ目として、先ほど話のあった財政との連動があげられる。良い計画ができて、お金がないから再配置できないというようなことにならないよう、財政との折衝、連携強化により、必要な予算を確保していくことが必要だと考える。</p> <p>二つ目は、まちづくりとの連動。今後は、都市計画等であげられている様々な問題及びリニア開通による中心街の空洞化等の課題が進行していくことが懸念される。まちづくりの視点から再配置を戦略的に進めていく必要があると考える。</p> <p>3 つ目は、本計画の期間が 30 年間の長期であること及び地域住民との対話によって</p>

	<p>進めていかなければならない難しさへの懸念。市民合意を得るためには、相当な労力が必要となってくると思う。計画が長期であるため、今すぐやらなくても良いのではないかと、先送りになってしまうことが懸念される。人口問題と同じにならないように、先送りせず、進行管理にあたっては、前倒しでやるくらいの気持ちで進めて行っていただきたい。</p>
事務局	<p>再配置計画の元になっている総合管理計画においても、まちづくりの視点から再配置を進めるとしている。また、現在、本市では立地適正化計画の策定を進めている。また、国の通知等をもても、公的不動産を使ったまちづくりが大変重要だとしている。</p> <p>再配置の実施にあたっては、都市マスタープランや立地適正化計画など、まちづくりに関連する計画と連携を図っていかなければならないと考えており、人口減少に伴う居住誘導等の必要性も踏まえるなど、時代のニーズに沿った再配置を行っていく。</p> <p>また、着実に計画を推進していくため、再配置計画は10年毎ローリングにより、見直しを行っていく。</p>
委員長	<p>現在、老朽化が進み、利用頻度が低下している施設も、設置当初は必要であったからこそ設置されたものである。人口減少や、少子高齢化なども影響することが予測されることから、再配置にあたっては、利用頻度を注視していくことは重要な要素だと考える。</p> <p>先ほど話のあった市営住宅のように、利用者が1人でもいれば廃止に手を着けられないような難しい部分があるのも事実である。</p>
事務局	<p>総量の削減により、財源支出を抑制していくことは重要であるが、利用者の安全を確保するという点も、この取組の重要ポイントとなっている。</p> <p>住宅の問題については、安全性の観点から住民との話し合いを進め、理解をいただくなかで、進めていかなければならないと考えている。</p>
委員長	<p>おそらく、老朽化が進んでいる住宅に住んでいる人は、家賃が市場価格と比べ、低額であるから、負担が増えるという意味で出て行くことができない、他のところに引っ越せないという諸々の事情もあると思うので、職権で奪われたということにならないような丁寧な対応が大事だと思う。そういう点では、公共施設の再配置は、大変難しいものだと思う。</p>
委員	<p>施設を既に廃止している社会教育センターのように、立地の良い土地については、売却のみに拘らず、継続的に収入を得ることができるよう、リースしても良いのでは。</p>
事務局	<p>貸付による土地の利活用は、検討していく。</p> <p>現状、必要のない土地も、長期的に見れば、本市として、継続して保有することが将来的に見て良いという財産もあると考える。</p>

	<p>そのような財産は、売却だけではなく、貸付によって保持していくことも一つの手法だと考えている。</p>
<p>委員長</p> <p>事務局</p>	<p>(3) その他(46:00)</p> <p>その他として何かあれば、意見を募る。</p> <p>本計画の策定にあたり、委嘱期間を延長させていただくなかで、2年以上の長期間にわたって、検討及び貴重なご意見をいただいたことに、心より感謝申し上げます。</p> <p>本日、皆様から賜った意見等を踏まえ、素案を再度整理し、概ね5月を目途に、パブリックコメントを実施しながら、市民の意見を聴取していく。</p> <p>その後は、議会等の説明を終え、概ね6月末を目途に、完成・公表を目指していく。</p>
<p>事務局</p> <p>委員長</p>	<p><b>5 事務連絡</b></p> <p>本日の説明で気付いた点があればメール等でご連絡いただければ反映していく。</p> <p>前回の委員会でもお話したが、甲府市附属機関等の会議の公開に関する基準に従い、本委員会は原則内容を公開することになっている。</p> <p>本日の会議録について、出席した委員全員に内容を確認いただきたい。</p> <p>後日、メールにて会議録の要旨を送付するので確認いただき、加除修正等あれば指示いただきたい。</p> <p>以上にて、本日の議題を終了する。</p>
<p>司会</p>	<p><b>6 閉会</b></p> <p style="text-align: right;">以上</p>